

排泄ケアを見直しスキントラブルが減少 看護の質向上と共同業務の改善をはかる



下高恵子看護部長



三浦妙子副看護部長

ADLが低下し、セルフケアの援助が必要な患者に対し、排泄ケアの充実は大きな課題である。多忙な業務のなか、個別性の高い排泄ケアを実現する目的でユニ・チャーム メンリッケが提供するTENAを導入し、看護業務の見直しをはかった東広島医療センターの下高恵子看護部長と三浦妙子副看護部長に話を聞いた。

オムツを当てる体験により 患者理解を深める

—TENA導入の経緯を教えてください。

下高 看護の質の向上と患者さんのQOL向上、看護業務の負担軽減を目的にTENAを導入しました。当院では、脳神経外科病棟の入院患者さんのオムツ使用率が高く、7割近くになります。前看護部長が他施設の事例を聞き、導入を決めました。それまでオムツは患者さんの持ち込みだったため、病院のやり方そのものを変えなくてはいけませんでした。看護師だけでなく、病院全体の協力が得られたのは、前看護部長の力が大きかったと思います。

—TENA導入のプロセスをお教えてください。

下高 2010年7月から、オムツを当てている患者さんが最も多い脳神経外科病棟から試行を開始しました。同時に別の2病棟で講習を開始して9月から試行し、残りの3病棟が講習を行うというように、段階的に導入を進め、11月には全病棟で導入しました。

三浦 TENAの1枚使いに対する理解が得られるかどうかという心配はありましたが、全スタッフを対象に自分たちがオムツを当てる人、当てられる人、それを

観察する人と3人1組で講習を行い、オムツの当て方を習得できたので、抵抗はありませんでした。

下高 最初に導入した脳神経外科病棟の看護師が作成した漏れ防止のためのオムツ選択のフローチャートを他の病棟と共有し、オムツ選択の方法を習得していきました。TENA導入後は、新人看護師の就業前研修でオムツの当て方の講習を行っており、入職時には新人看護師もオムツ交換ができるようになっています。現在は、アセスメントした看護師がオムツの種類を決めていますが、経験を重ねることで入院時に患者さんの体型などを見るとすぐに判断できるようになりました。また、患者さんの状況によってオムツの種類も変わるので、カンファレンスで話し合っています。

—患者さんの反応はどうですか？

下高 以前は認知症などにより不穏のある患者さんが無意識にオムツを自分ではずしてしまうことがあったのですが、TENA導入後は自分でオムツをはずすことはなくなりました。1枚使いで腰まわりがすっきりしていますし、さらっとした肌ざわりで不快感がないのだと思います。漏れがなくなったこと、重ね使いをやめたことで、オムツかぶれなどの皮膚トラブルも大幅に減少しました。

オムツ交換業務の見直しで 心にゆとりをもったケアを提供

—看護業務に変化はありましたか？

三浦 当院は固定チームナーシングを採用しており、共同業務としてオムツ交換を行っていますが、オムツ交換の頻度が1日7～8回から3～4回になり、全看護師によるオムツ交換にかかる時間が1日延べ3～5時間減少しました。これまでは超過勤務で日常的なケアも時間内に終わらないほど多忙でしたが、オムツ交換業務の負担が軽減し、心にゆとりをもつて一つひとつの業務にあたることができていると思います。

下高 漏れることは、患者さんにとっても羞恥心を伴うものですし、病衣やシーツの交換などにも時間をとられます。スキントラブルが発生すると処置にも時間をとられますが、それが大幅に減少したことも看護師の業務軽減につながっていると思います。

三浦 TENAは吸収性がよく、逆戻りしないので、夜間のオムツ交換が不要になりました。患者さんは夜間、オムツ交換で起こされることもなく、睡眠を優先することができるのも大きなメリットです。

—コスト面での変化はありますか？

下高 当院では、以前は持ち込みのオム

東広島医療センターの排泄ケアへの取り組み

「フレックスの当て方チェック表」の作成

先行して当て方の講習、試行を開始した脳神経外科病棟の看護師が、正しい当て方の習得を目的にTENAフレックスの当て方チェック表を作成。各病棟と共有して尿漏れしにくい装着方法を習得した。

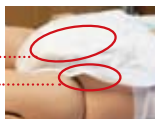
フレックス当て方チェック表 以下の項目を確認して装着しましょう

- フレックスを縦に二つ折りした後、軽く引き伸ばしている
- 男性の場合、陰茎が下向きになっている
- 1枚で使用している
- サイズが合っている
(目安：50kg以下はSサイズ、50kg以上はMサイズ)
- ベルトが腸骨の位置にある
- 中心線が背骨の位置にある
- ギャザーが立っている



〈陰茎の長さが陰のうまで届かない患者〉

- オムツの前面だけで吸収され、腹部側に尿漏れがあるときにはコンフォートの使用を検討



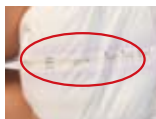
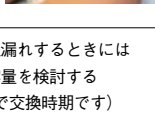
〈痩せている患者〉

- 腸骨から恥骨にかけてのギャザーにすぎ間がない



〈体動のある患者・下肢が伸展できない患者〉

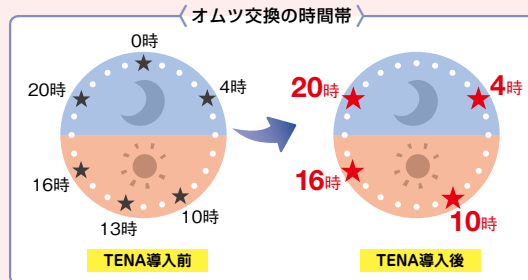
- ギャザーと体にすぎ間がない



オムツのラインが全部青くなって、尿漏れするときにはオムツ交換の時間、回数、オムツの容量を検討する(ラインの黄色い部分が残れば指1本分で交換時期です)

オムツ交換業務の時間短縮

TENA導入後、オムツ交換を含む共同作業時間の効率化について、固定チームナーシング研究会全国研究集会で発表。昼夜問わず定期的にオムツ交換を行っていたが、TENA採用後はオムツの種類を変えることで、夜間のオムツ交換が不要になった。



ベッドサイドの整理整頓とオムツ在庫の管理



TENA導入前

ベッドサイドの床頭台にオムツの補充を行っているが、患者ごとに使用するオムツと定数がわかるように確認用紙を掲示している。確認用紙にはオムツの1枚あたりの価格も明記されており、看護師のコスト意識向上にも役立っている。



TENA導入後

ツを使用していたので単純にコストを比較することはできませんが、オムツの使用量が減ったことで、廃棄分の量は少なくなりました。

三浦 1枚あたりの値段はTENAのほうが高いのですが、オムツだけでなくパッドを3枚ほど重ねて使っていたので、以前のほうが1回に使用するオムツの値段は高かったと思います。また、漏れなどの不安、快適性、皮膚への安全性などのトータルコストを考えれば、TENAは適正なコストだと思います。

下高 オムツに対する看護師のコスト意識も変わりました。以前は、患者さんの持ち込みだったため、あまりコストを意識せずオムツ交換を行っていましたが、現在は、コストを考えながらオムツを選

択し、使用するようになりました。

——今後の課題を教えてください。

下高 TENAを導入して1年が経過しました。今後は、アセスメントツールを作成するなどして共通認識を深め、さらに排泄ケアに関するアセスメント能力の向上をはかっていく必要があると考えています。また、家族にもTENAの特徴を理解していただくことが大切です。TENAは吸収性にすぐれているので、排尿があるたびに交換する必要はありませんが、家族が近くで見れば、「替えてほしい」とお願いされることがあります。家族の立場からすれば当然だと思いますので、交換の回数を減らすためだけでなく、ケアを充実させるためにTENAを使用しているということを、家族の立場に立って

十分説明することが大切です。

三浦 排尿パターンや意識の有無、尿意の訴えの有無など、患者さん一人ひとりに合わせた排泄ケアを考えていく必要があります。ケアの充実に向けて、現在の看護業務の考え方を変える必要があり、そのためには、ほかの業務を整理していかななくてはいけないかもしれません。排泄ケアの見直しを機に、個別性の高い看護の提供を追究していきたいと思います。

独立行政法人国立病院機構
東広島医療センター

〒739-0041
広島県東広島市
西条町寺家513
TEL 082-423-2176
<http://www.hiro-hosp.jp/>

